

WCEE2024 参加報告

2024年6月30日から7月5日にかけて、イタリアのミラノで第18回世界地震工学会議 WCEE2024(18th World Conference on Earthquake Engineering)に参加した。私が初めて参加した国際会議は2年前であったが、コロナ禍の影響でオンライン開催であったため、対面での参加は、今回が初めてであり、オンラインでは決して体験できない貴重な経験となった。今回の国際会議では研究成果の発表だけではなく、企業展示や振動台の体験イベントなども開催されており、国境を跨いで地震工学の最新技術について知る機会にもなった。

私はこの学会で、ステージでの発表とポスターセッションでの発表を行った。ステージでの発表では、自身の研究テーマでもある、建築設備機器に用いられる耐震支持部材の力学特性に関する研究の成果を発表した(写真1)。60人程度の人達が私の発表を聞いており、質疑応答の時間では英語でいくつかの質問を受けたが、何とか受け答えすることができた。質問に対して如何に簡潔で平易な英語で答えるべきかが大切だと改めて認識した。別日に行われたポスターセッションでは、私が1年前に

ルーマニアに留学して実施した、伝統的な木造住宅の壁の面内挙動実験の成果について発表した。通路に設けられたモニターを使っでの発表だったため、各々の発表に興味がある人達が立ち見で聴くスタイルである。聴衆との距離もステージの時と比べてかなり近く、アイコンタクトも忘れずに伝えなければならない。自分の発表が終わった後は、会場の空いているスペースで、お互いの研究内容や自国の研究状況や環境などについて、コーヒーを飲みながら話し、日本とは違ってフランクな雰囲気で見聞が交わることができる時間であった。

今回の会議では、日本・中国・韓国・台湾などのアジア諸国を含め、アメリカやイタリア、ドイツなどの欧米諸国、さらにアルジェリアやインドなど、各方面から地震工学について熱心に取り組んでいる研究者と交わる機会が多かった。WCEEの期間中は、会場だけではなく、ミラノ市内にてWCEEの参加票を首にかけた人達を多く見かけた。たとえば、洗濯物のためにミラノ市内のコインランドリーに立ち寄った際には、洗濯機の使い方を教えてくれた人が偶然、台湾の地震研究所からWCEEに参加していた研究者であ

ることが判り、話が弾んだ。翌日、その方は私の発表を熱心に聞いてくださり、日本の耐震技術などについて非常に関心が高かったことが印象的だった。写真2はWCEEのConference Partyにて、その方と撮った記念写真である。また、日本では忙しくてなかなか交流することのない方達と、ミラノで交流できたのもWCEE期間中の醍醐味であった。写真3は、東京大学の山田先生達のグループの懇親会後の集合写真である。

私は今回のWCEEへの参加を通じて地震工学の発展のために、こんなにも多くの方が熱心に研究に取り組んでいる姿を目の当たりにし、多くの刺激を貰うことができた。このような機会をくださった先生に感謝を申し上げると同時に、WCEEへの参加にあたって航空券・宿泊施設の手配などサポートしてくださった方達、さらにはイタリアで出逢ったすべての方に感謝を申し上げたい。今回の経験と刺激を忘れずに、これからも地震工学の発展に貢献できるよう全力を尽くしたいと思えた1週間であった。

平野 一郎 (東京科学大学)



写真1 WCEEでの発表の様子



写真2 ミラノでつながった研究者 (Conference Party)にて



写真3 懇親会後の集合写真